

平標山 (H1677 迄)・東谷山 山行記録



白砂・佐武流・苗場 (松手山より)

目的地	①平標山 (H1677 迄)・②東谷山	期 日	平成19年3月31日 (土)
山人	笠原正雄単独	特 記	平標は強風のため再び途中撤退。もうひと山登る。

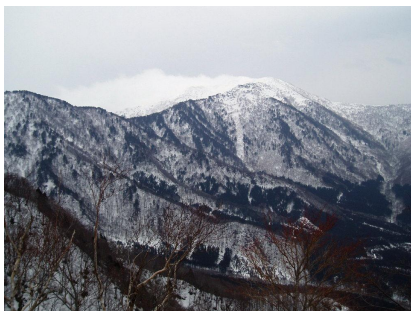
地 点 名	(着) ~ (発)	天候	記 事
①			
与 板 発	3:40	曇	湯沢まで高速深夜割引を利用。朝食弁当を忘れてしまった。
元 橋 P	6:10 発	〃	雪がすっかり解けていた。トイレは閉鎖中。数台と1幕あり。杉林の登り口は雪が無い。凍土の道。上がるにつれ雪混じりとなる。
鉄 塔 下	7:20	曇・風	手前の急登から雪となる。たまにぬかるが、壺足でOKだ。鉄塔で風がうなっている。通過してのち、7:40 にヤッケを着る。笹団子を食べる。キックステップも良く効く。
松 手 山	8:00	〃	10 日前の雪穴が少し残っていた。苗場山・神楽に陽が当たっている。
標 高 点 1 6 7 7	8:25	〃	風が強く悩む。左トラバースして、その先にある尾根の喬木林を使えば風が吹いても登れるかとも思ったが、予報は下り坂なのでここでやめる。自然保護注意看板を撮って恨めしく下山。
松 手 山	9:00	〃	ここに戻る際、風の通り道となると、上体を屈め、足を踏ん張らないと進めない程に風が強くなって来た。先へ進まないで正解と思った。ここを降り始めると下りの靴跡があった。やはり引返したのだろう。
男 女 に 合 う		〃	鉄塔上の林で2人隊が休んでいた。少し会話する。松手山までと言う。
ヤ ッ ケ 脱 ぐ	9:40	曇	鉄塔の風の唸りが上山時より強い。急登を降り、尾根から下って夏道。
元 橋 P	10:10	〃	車数は朝と同じ位。下山帰宅を自宅に TEL 連絡する。
②			
二 居 集 落 奥		曇	入山口を確かめるだけと思いここに来た。ショートスキー男が発発準備をしていた。彼に促されて東谷山まで行くことにした。翻意の旨自宅に TEL。
同 上 発	10:50	〃	急いで食料をザックに戻し、ワカンとストックを置いて歩き出す。
二 居 峠	11:15	〃	杉林の林道も途中から雪となる。峠に東屋と広場がある。
尾 根 取 り 付 き	11:30	〃	貝掛バス停分岐を過ぎ下り道の途中右に尾根に上がる踏み跡もあったが、男の足跡を追う。すぐに追いつく。彼はスキーで斜登高して行く。ピッケルを抜いて杉の雪斜面を急直登する。
巡 視 路 に 上 る	11:40	曇・風	雪が剥げた尾根に立派な登路。徐々に雪道となる。
送 電 線 鉄 塔	11:55~12:15	〃	ヤッケを着込んでコンクリート台座に腰を下ろし白角缶と笹団子。広い尾根に踏み跡が進んでいる。次第に尾根が細くなる。

山容が見えた	12:30	曇・風	雪の着いた尾根の先に山頂方向が見えた。右手に日白山を見る。
先行隊の姿	12:55	湿雪	再び尾根が広くなり立派なブナの林。ワカンの3人隊が前を進む。
先行隊を追越す	1:20	〃	出だしのショートスキー男が顔面マスクで滑り降りて来た。一声交わす。
大テント2張	1:30	〃	慶応中の生徒のテント。中から女性の声も聞えた。数人がスコップと鋸を使用して別の雪壕を掘っている。昨晚と今晚泊まるとのことだ。写真を撮って貰う。
東谷山頂	1:35	〃	さほど広くないがこんもりとした山頂。その先に日白山へ尾根が続く。やや戻って、窪地に身を屈めて風を避け、おにぎり1つ食べる。幕営と言う先ほどの3人隊が日白山へと進んで行った。すぐに下山する。
ブナ林	2:00	曇・風	写真を撮りながら下る。鉄塔下は更に強風。雪は当たらなくなった。
林道に下りる	2:40	曇	今度はプラスチック板で土留めされている巡視路に従う。
二居峠東屋	2:50	〃	雪消え脇にフキノトウ。摘んでちょうど良い土産が出来た。
車に戻る	3:15	〃	フロントガラスに僅か雨粒。「林屋」を訪ねたが留守だった。
帰宅	5:30	雨	湯沢から高速利用。ゆっくり運転で時間調整をしながら5時チョイ過ぎて長岡IC通過。高速通勤割引利用。

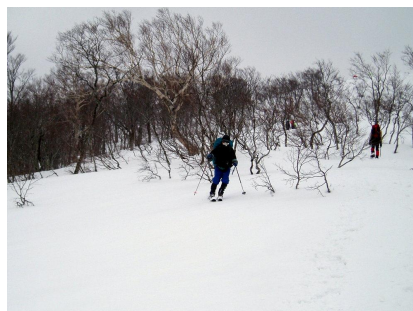
10日前の3月21日に同じルートで平標山を目指した。上天気で山頂を踏める条件であったが、事前の調査不足と、単独トップのラッセル疲れと、後続の3人隊が途中で引き返してしまうと、完全単独になってしまうのではと言うメンタル面での弱さが出て、松手山までで終わってしまった。

本日の予報は午前晴マークであった。午前勝負と思い早朝発でリベンジに向かった。しかし、雲の動きはやや早く、一度も陽が当たらなかった。他の入山者は無いだろうとの覚悟はして出かけが、風がだんだん強くなって来て、森林限界を過ぎてからは不安感が募り、登り尾根に差し掛かるところで引返した。

二居からの東谷山は日白山へ通過点となる山で、最近になってチェックしていた山だ。ちょうど良いタイミングで男と出会い、向かう元気が出た。これで日白山へ登る足がかりが出来た。



日白山



山頂間近か



背後左が東谷山頂